

《中学生の部》

優秀作（国務大臣・国家公安委員会委員長賞）

埼玉県越谷市立南中学校

3年 金子 由奈

守りたいもの

私が学校から帰る途中、小さい子が横断歩道の無い道路を渡ろうとしていました。そこは車の通りが多く、一人で渡るにはとても危険なので、その子に話しかけました。「何しているの？ここは危ないからあっちの横断歩道渡ろうよ。」と私が言うと、その子はすぐに受け入れてくれました。渡ろうとしていた理由を聞いてみると「友達と会うために急いでいて、前にお母さんと一緒にあそこを渡ったことがあったから。」と言っていました。私は「急いでいてもこの道は車が多くて危ないから、こっちの横断歩道まで来た方がいいよ。」と伝えました。無事に横断歩道を渡り、別れる時には笑顔で手を振ってくれました。あの子は一番身近な母親と渡ったことがあるから、一人でも大丈夫だと思ったのでしょう。私も先生や両親、自分より年上の人人がやっていたらやっていいものだと思うかもしれません。あの子が気付かずして渡っていたらどうなっていたか分かりません。子供は大人を見て学び、成長します。私達は小さな命、笑顔を守るために、自分達の行動一つ一つがお手本となるように責任を持たなければなりません。私はこの件をきっかけに交通ルールについてよく学ぼうと思いました。

私がすぐに思いつく交通ルールは「信号を守る」「ヘルメット着用」「ながら運転禁止」というものでしたが、調べてみると意外なものも多くありました。例えば「横断歩道で歩行者が待っていたらどんな理由でも車は譲らなければならない」というものです。歩行者側の私は横断歩道で待つ時、急いでない時は車に譲ることがあったが、運転手側に迷惑をかける可能性があったのだと気付きました。交通ルールには一つ一つ理由があり、その理由について一人一人が理解することでより多くの人が交通ルールを守れるようになるのではないかと思います。

今回考えたことを家族と共有しました。自分だけが気を付けていても他の人が気を付けていなければ意味ないという意見が出て、自分の身は自分で守る力も必要だと気付きました。私にもできることとして、道を渡る時には左右を確認し手を挙げる、夜や雨の日などの暗くなる時には自転車のライトをつけるなどがあります。自分自身で事故を防止することは、事故を起こさずに済む相手のためにもなるので、相手への思いやりの心で取り組んでいきたいです。

今回、交通ルールについて自分で考え、家族で共有し話し合ったことで、より考えを深めることができました。これからも私は自分の行動に責任を持ち、お手本となるような行動をすることを心掛け、交通ルールをしっかり理解し、守っていきたいと思います。みんなが事故にあわず、笑顔でいられるような世界になることを願っています。